

第1回東海市スポーツ推進会議記録

開催日時	令和5年(2023年)5月29日(月)	午後2時00分 午後4時40分	開会 閉会
開催場所	東海市役所 603会議室(6階)		
出席委員	委員長 副委員長 委員 委員 委員	吉田 文久 長澤 省吾 小島 利和 久野 耕佐 大城健太郎	委員 委員 委員 委員 委員 森山 慶郷 安藤 和明 飯田 佳洋 高谷 政昭 小島 久和
欠席委員	なし		
委員以外の出席者	なし		
公開、非公開の別	公開		
傍聴者	なし		
職務のため出席した事務局職員	教育委員会次長 兼スポーツ課長 スポーツ課統括主任 スポーツ課主任 スポーツ課主事	鈴木 俊毅 土田 将康 藤谷 宗仙 千葉 廣	
記録作成者職・氏名	スポーツ課主任 藤谷 宗仙		

(午後2時 開会)

1 自己紹介

委員及び事務局が自己紹介を行った。

2 報告事項

今年度の進捗状況について

事務局から資料に基づき説明を行った。

(森山委員)

卓球など楽しみながら活動しているが、高齢者が多い状況であります。指導者がいないため指導者を呼んで活動ができないかも考えております。

(委員長)

当大学の障害者スポーツのボランティア活動がまさにそれにあたることになりまして、現在愛知県の企画に対してボランティアを派遣できるようになっております。他への派遣についても調整していく必要があります。

(飯田委員)

スポーツ出前授業について、いろいろなスポーツに触れ合う機会を作っただけなのは小学生にとって大変いい経験ができていると感じています。いろいろなスポーツに触れる機会を与える場を提供するのは非常にいい施策となると感じております。

(委員長)

今後どういうプログラムを企画していくのかというところで大変参考になる意見をいただきましてありがとうございました。

次の議題に参ります。

3 協議事項

(1) スポーツ推進計画の令和4年度施策評価について

事務局から資料に基づき説明を行った。

(委員長)

単年度で評価していきながら短期的なところでいくと3年ぐらいで中間評価になるのか。

(事務局)

各取組の推進にあたっては、1,2年以内に取り組む短期、3,4年以内に取り組む中期、5~7年以内に取り組む長期となっており、中期までの4年で、中間評価を実施し、長期7年で最終評価を実施する考えでおります。

(委員長)

評価について、単年度で成果が出るものと2、3年後に成果が出るものとで違ってくるためそこは念頭におきながら令和4年度の評価となります。

続いて、スポーツライフの推進について、施策の評価は横ばいとなったがこれに関していかがでしょうか。

(副委員長)

令和3年度のオリンピック開催によるスポーツ機運の高まりによりとあるが、新型コロナウイルス感染症による在宅勤務が増えたことにより、体を動かす機会が増えたのではないかと捉えております。コロナの終息にあわせて、受け皿となる事業がやれていれば数字は下がらなかった可能性はあります。

(高谷委員)

スポーツを実践している人の割合58.4%を目標としているが達成する算段はあるのか。

(事務局)

この数値を上げていくためにいろいろなことに取り組んでいくという予定はありますが、これをやれば達成するという事業はございません。

(高谷委員)

相当なことをやっていかなければ目標値を達成するのは難しいのではないかと。

(小島利和委員)

市民がスポーツを身近に感じられるようにすることが大事になり、各種団体が連携したスポーツ体験会が非常に有効になってくる。

(久野委員)

例えば、健康指標を取り入れて健康のためにスポーツをしましょう。というのもひとつの手段として取り入れるのも方法のひとつであるのではないか。他にもいろいろ数値化して公表していくのもいかが。

(委員長)

どのように数値化したのか。

(事務局)

令和4年度が終わった段階で実施した総合計画のアンケートを利用しており、対象は16歳以上の男女3,500人にアンケートした結果となります。

(委員長)

数字を上げることよりも何のために数字を上げるのかが大事になってきます。令和4年度に数字が下がったが、それが次のステップにつながるものが大事になります。

(飯田委員)

令和4年度から小学校でも高学年を中心に教科担任制の導入が一部の小学校で導入され、会計年度職員などの勤務時間の制限のある職員が授業を受け持つ関係で時間割を動かすことが難しくなっています。教科担当制が普及することになった場合を考慮しながらスポーツ出前授業などの事業を調整していくこととなります。

(委員長)

学校の在り方が変わってくることを鑑みながら計画とのすり合わせをしていく必要があります。

次のアスリート活動の推進について、これは順調という評価であるがいかがでしょうか。

(小島利和委員)

クラブのスポーツ功労者表彰者は増加している状況です。

(高谷委員)

世界大会への出場者も件数に含んでいるのか。

(事務局)

含んでおります。

(委員長)

安藤委員いかがでしょうか。

(安藤委員)

昨年度インドアソフトテニス大会に出席させていただき、正式な全国大会ではないが各地からレベルの高い人が集まった大会となっており、参加者には自分のレベルを知ることができるいい大会だと感じました。我が社も長年支援させていただいております。

(委員長)

レベルの高いプレーを見ることはモチベーションの向上に繋がります。

続いて、スポーツによる交流の推進について施策の評価は横ばいとなっているがいかがでしょうか。

(森山委員)

身障会にて、県の大会や知多7市町の大会に参加しており、その際に障害者同士で他市町と交流をしております。

(委員長)

障害者の方々がスポーツの場に出ていきそこに健常者も集まり一緒になって活動ができるようになるといいと思います。

(森山委員)

ぜひ、健常者の方にもスポーツを見ていただいてサポートしていただけるように活動していきたいです。

(委員長)

ハーフマラソンの今年度の進捗状況についてはどうですか。

(事務局)

令和5年7月14日から募集を開始する予定です。

(委員長)

スポーツに親しむ場の整備について施策の評価は順調となっているがいかがでしょうか。

(森山委員)

スポーツ施設の環境整備について、東海市の施設では、障害者がスポーツをする上で整っていないところはあると感じております。障害者がスポーツをやることに関して設備面は大きな要因となってきます。

(事務局)

既存施設の有効利用も視野に入れながら、施設の整備に関しては計画的に実施して参りますので、御協力をお願いします。

(久野委員)

加木屋緑地のジョキングコースが整備されており、使いやすい環境であるため利用を促進してもいいと思います。

(事務局)

今年度愛知駅伝の記録会にて加木屋緑地を使用する予定があり、こういうコースがあることをアピールできればいいです。

(委員長)

コミュニティの関係から大城委員いかがでしょうか。

(大城委員)

スポーツは種目も競技者も多様であるため、分析し、そこに重きをおいて環境を整えていくのがいいのではないかと思います。

(委員長)

全体に向けての整備と、実績や成果を大事にしながら調整する戦略もありますので、おそらく両面からのアプローチが必要になります。

(小島利和委員)

今年度市民体育館改修工事でアリーナ等使用できない期間が長く、ジュニアスポーツフェスティバルも愛知製鋼の体育館を使用させていただきました。民間施設と連携した活用も今後調整していく必要があります。

(事務局)

民間企業および大学にご協力いただきながら、今までやれたことをやっていけるように調整を図っていくべきであり、市民の皆さんが活動できる場所を広げられるように尽力して参ります。今年度市内スポーツ施設活用調査を行い、市内公共スポーツ施設の利用状況を整理し、民間施設、大学の利用状況も調査しながら、連携して市民の皆さんの利用に繋げていければと考えております。

(高谷委員)

美浜町では新しく運動公園を整備しておりますが、東海市にもああいった施設ができればいいなと感じます。

(飯田委員)

市内公共施設のスポーツ利用に関して、市外の人でも利用することができますか。

(事務局)

運動公園につきましては、5市5町に在住、在勤、在学の方が利用することができます。市内小中学校体育館開放については、年間を通じてスポーツ活動を行う市内在住、在勤、在学者10人以上の団体が利用することが可能です。

(副委員長)

新しく施設を作るのは、難しいので、市民利用ができることを条件に民間施設を安心・安全に利用できるように市が補助金を支給するというのはどうか。

(事務局)

現状としてその制度はないため調査研究いたします。

(委員長)

いろいろご意見いただきましてありがとうございます。施策の評価につきましては、この資料のとおりとさせていただきます。

(2) スポーツ推進計画の推進について

ア 重点プロジェクト

1 都市公園スポーツ交流拠点プロジェクトについて

事務局から資料に基づき説明を行った。

(委員長)

こどもたちへのスポーツ交流・体験につなげられるといいと思います。

(小島委員)

モルック・ノルディックウォーキング体験会について対象者を明確にした方がよく、コミュニティ向け等に絞って実施したほうがいいのではないか。今年度の予定に組み込むことが難しければ、来年度に向けて検討してみてもはどうですか。

(委員長)

地域という面で大城委員いかがでしょうか。

(大城委員)

まずは地域に根差した形で行いそこから広げていったほうが効果的です。

(事務局)

事業は施設管理協会が実施しており、そこと協力しながら、コミュニティにも連携できればと考えておりますので、その際にご協力をお願いします。

(委員長)

地域に根差した活動とその垣根を超えた交流ができれば理想的になりますのでそこも検討したほうが良いと思います。

(副委員長)

今年度購入したドッチビー、インディアカも道具としての消耗が早いものになりますので、ランニングコストを考慮して貸出用具の追加を考えたほうが良いと思います。

(事務局)

10月9日に「スポーツの日」としての事業を施設管理協会が実施する予定がございますので、皆様に連携が図れるものがございましたらご協力をお願いします。

(委員長)

次の議題に参ります。

2 学校のスポーツふれあい広場プロジェクトについて

事務局から資料に基づき説明を行った。

(小島委員)

新たに見守り団体を活用するのではなく、こども教室と連携を図り、その指導員を活用してみてはどうか。

(事務局)

こども教室は人数を募集して実施しており、スポーツふれあい広場プロジェクトは、自由に広く学校を開放するものであり、主旨が異なりますが調整してみます。

(委員長)

次の議題に参ります。

3 スポーツ指導者プロジェクトについて

事務局から資料に基づき説明を行った。

(久野委員)

現場との調整が難しくなるため、運用の面に対して課題を洗い出す必要があります。現役世代は、仕事が忙しくなかなか指導者としての時間が確保しづらいため、人材をうまく活用できるような運用方法が必要となると思います。

(委員長)

その点に関して事務局はどう考えていますか。

(事務局)

指導したい人を集めて指導日・時間ごとに登録していただき、ネットやチラシなどで利用者は、登録した人を確認できるようなイメージです。部活動につきましては、学校側がどのような指導者を希望しているかを指導主事に相談し、指導主事が指導者バンクを通じて部活動に派遣できる仕組みにするイメージです。部活動移行の受け皿に関しては、決まっておりません。

(小島利和委員)

概念だけでなく、運用方法、権限、責任、手当等を早く決めて制度を開始する必要があると思います。

(事務局)

他市町を参考に制度設計はできますが、スポーツクラブ東海の認定指導者講習会とも連携をする必要があります。どこが主体となって指導者バンクを運営していくのかをスポーツクラブ東海と調整しております。次回の会議には設置要綱等を提示できればと考えております。

(小島利和委員)

認定指導者もそれぞれですでに活動しており、その中から学校の部活動に派遣できる人は限られてくるため、大学生や教員の方々に協力してもらわざるを得ないのではないかと。また、保護者にしても今まで学校の先生が指導をしていたという安心感もあつたためそこも懸念されます。

(事務局)

学校への派遣につきましては、指導主事を経由して派遣する流れを考えておりますが、本日はバンクの受け皿にどこが適しているのか等の意見も伺いたいと考えております。

(小島利和委員)

まずは中学校の部活動地域移行への対応が考えられます。土日の移行からとなるがそこに優先順位をつけて課題を洗い出し解決していく必要があると考えます。

(委員長)

部活動の地域移行に関して、スポーツ推進計画の筋とは異なるが、人を派遣するという意味に関しては、筋が同じになる。市が考えているバンクのイメージがわかった段階で次は、運営をどこが責任をもって実施していくのかになり、そこが決まった後に指導員の基準やどうやれば指導員が集まってくれるのかという条件整備になってきます。全体を通しての課題と個別ごとの課題を見比べて進めていく必要があります。

(森山委員)

指導者バンクには健常者だけでなく障害者への派遣は含まれていますか。また、現在東海市で障害者スポーツへの指導員が何名いますか。

(事務局)

障害者も含まれております。現在市内での指導員は把握できておりません。

(森山委員)

障害者に向けた派遣に関しては、健常者よりも求められる専門性が高くなるが、安心・安全に利用できるバンクにしていきたいです。

(委員長)

募集の際に日本障害者スポーツ協会の資格を有する者等の条件を設ければ良いと考えます。スポーツ推進委員は、指導者バンクに繋げることはできますか。

(高谷委員)

推進委員は、ニュースポーツの普及活動となっております。

(委員長)

その点に関してでしたら可能性があるかもしれません。

(事務局)

大学生や企業のOB等でしたら指導者バンクに登録し、活動することはできそうですか。

(安藤委員)

OB でしたら可能性はあります。現在東海市の愛知駅伝においても協力させてい

ただいております。

(副委員長)

大学生ですと制度が始まってみなければわからないというのが正直なところになります。1回だけのボランティアとは違い、学生も部活動等の予定があります。なかなか難しいかもしれないが、その中でもやってくれる大学生はいるかもしれない。

名古屋市の採用試験では、外部指導員に登録して実績をつくと一般教養試験に加点される制度があるため東海市もそういったものを導入することができれば人が集まるひとつの要因になります。

(委員長)

学生のなかにはそこを学びの場ととられる人もいるし、アルバイトととらえる人もいますので、無償なのか有償なのか、有償ならどの金額が妥当なのかといったところが重要になってきます。

(小島利和委員)

資料のイメージ図の学校部活動において平日が土日に変わるように見えるので平日を消したほうがいいのではないですか。

(事務局)

平日が土日に変わるということではなく、まずは土日が地域移行していくというイメージになります。わかりにくくて申し訳ございません。

(委員長)

学校という立場から飯田委員はいかがでしょうか。

(飯田委員)

地域部活動という言葉あるが、これは校長会では学校部活動とは違う活動を意味することになってしまう。この図だと学校の部活動の代わりに地域の部活動をつくるようにとらえられてしまう。こういった言葉の一人歩きが危惧されます。

また、大会についても中小体連が元になった大会とその他の連盟、協議会の大会では根本が異なってくるため伝え方には気をつける必要があります。そのなかで指導者バンクに登録している人たちは、そこまでの背景を知らないことになりますので、その周知も必要となってきます。あるいは、大会を精査するのかがポイントになってきます。

(委員長)

そういったところのバランスを図りながら指導者バンクを精査していく必要があります。

(副委員長)

イメージ図には部活動指導員から「学校部活動」と「地域部活動」の2本に分かれて派遣されるように描かれているが、部活動指導員の名前で派遣されるのは、学校のみであることから、地域部活動に派遣される矢印は外しておいた方がわかりやすくないですか。

(事務局)

そこに関しては、改めて相談させてください。

(委員長)

次の議題に参ります。

4 その他について

(委員長)

次回の会議はいつを予定していますか。

(事務局)

今回は8月を予定しております。

(委員長)

それでは、第2回の推進会議を終わらせていただきます。ありがとうございました

(午後4時40分 閉会)